

INTRODUCTION

# はじめに

2020年5月25日、アメリカのミネアポリスで黒人男性のジョージ・フロイドさんが白人警察官からの暴行で窒息死しました。この事件はSNSを通じてアメリカ中に広がり、警察官に対する抗議運動「ブラック・ライヴズ・マター(BLM)」はアメリカ国内だけでなく、世界各地に拡大していきました。世界には黒人差別だけでなく、さまざまな差別があり、人々はこの事件をきっかけに抗議の声をあげたのです。

このシリーズは、多くの人種差別の中から身近であるもの、学校の授業と関連しているものを中心に取り上げました。最初にテーマに関する人物やできごとをストーリーとして紹介し、その後には差別の実情や背景、歴史などをくわしく解説しています。

第2巻では、アメリカの人種差別についてあつかっています。黒人差別の歴史的な背景、黒人の市民権獲得のためにたたかった人々、アメリカの先住民に対する差別、新型コロナウイルス感染症による新たな差別などについて取りあげました。

人種差別は無知や偏見がもたらすものです。まずはどんな差別があり、なぜそんなことが起きてきたのかを知ることから始めましょう。この本を読み進めるうちに、過去にあった人種差別が現在の差別とつながっていることや、自分が無意識に差別している側になる可能性があることにも気づくでしょう。

CONTENTS

# もくじ

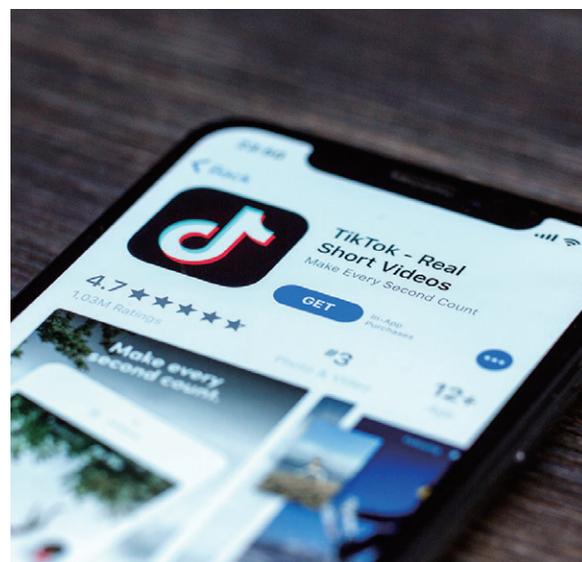
- はじめに.....02
- 黒人が守るべき16のルール.....04
- 「黒人の命も大切だ」Black Lives Matter (BLM).....06
- COLUMN01 大坂なおみ選手の7枚のマスク.....09
- 奴隷解放をめざした奴隷の子.....10
- 黒人奴隷は「人」ではなかった.....12
- 黒人たちのバス・ボイコット運動.....16
- 「わたしには夢がある」ワシントン大行進.....19
- 差別をなくし自由と権利を求める運動.....20
- 野球チームのインディアンズがチーム名を変更.....24
- アメリカの先住民に対する差別.....26
- COLUMN02 世界の先住民.....29
- メジャーリーグすべての選手が「背番号42」をつける日.....30
- スポーツ界の黒人差別と選手たちの抗議.....32
- 新型コロナウイルス感染症と黒人差別.....36
- COLUMN03 世界に広がった新型コロナウイルス感染症.....38
- 索引・写真提供・参考文献.....39

# 黒人が守るべき

## 16のルール

2020年5月29日、ぼくは1本の動画をSNSに投稿した。その動画でぼくは、お母さんから教えてもらった、若い黒人男性が守るべき16のルールについて話しているんだ。

ポケットに手を入れるという、みんながなにげなくやっているような行動でも、黒人男性というだけで警察官から怪しいと思われる。このルールは、それを避けるためにはどうすればいいかを教えてくれているよ。ぼくはこのルールを11歳までに覚えたんだ。



ぼくたち若い黒人男性は、友だちと別れるとき「またね」ではなく「安全にね」と言葉を交わす。それは「今日自分は無事に家に帰ってくるだろうか」という気持ちをいつももっているからだ。16のルールには、ぼくが無事に帰ってきてくれることを祈る、お母さんの気持ちがこめられているんだよ。



### Black teen shares a list of 16 rules

- 1 手をポケットに入れてはいけない。
- 2 パーカーのフードをかぶってはいけない。
- 3 シャツを着ないで外に出てはいけない。
- 4 道を歩いているときでも、まわりにどんな人がいるか確認する。
- 5 夜遅い時間まで外を出歩かない。
- 6 店で買うつもりのないものにさわらない。
- 7 たとえガム1個でも、何か買ったならレシートやレジ袋なしで店を出てはいけない。
- 8 誰かと言い争いをしているように見せてはいけない。
- 9 身分証明書を持たないで外出してはいけない。
- 10 タンクトップを着て運転してはいけない。
- 11 ドゥーラグ\*をつけて運転してはいけない。
- 12 タンクトップを着たり、ドゥーラグをつけて公共の場所に出かけてはいけない。
- 13 大きな音で音楽を流しながら車に乗ってはいけない。
- 14 白人の女性をじっと見つめてはいけない。
- 15 警察官に呼び止められて職務質問されたら、反論せず、ただ従うこと。
- 16 警察官に車を停止させられたら、ダッシュボードに両手を置き、運転免許証と登録証を出してもいいかたずねること。

\*ドゥーラグとは帽子の下や、頭に巻くスカーフのような布



彼はどうしてこの動画を投稿しようと思ったんだろう？ 次のページからそれを解説するよ。



# 「黒人の命も大切だ」 Black Lives Matter (BLM)

## ジョージ・フロイドさん事件

アメリカのヒューストンに住む18歳の青年、ケマロン・ウェルチさんが動画を発表しようと思ったのは、その少し前の25日にミネアポリスで起きた事件がきっかけでした。白人警察官により、48歳の黒人男性ジョージ・フロイドさんが窒息死した事件です。現場にいた女性が携帯電話で撮影した映像には、警察官から首を押さえられたフロイドさんが「息ができない、殺さないで」とうたっている姿がありました。まわりにいた人たちはひざをどけるように求めましたが警察官はやめず、フロイドさんは死亡しました。黒人男性が警察官から不審



▲ジョージ・フロイドさんの事件は人々に悲しみをもたらした

に思われたら命の危険もあることが、この事件からはよくわかります。ウェルチさんは、黒人男性が日常的に自分の身を守るために、どんなに気がつかず生きていくかを知ってもらおうと、この動画を投稿しました。動画を見てくれた人が、こんな社会は変えなければいけないと感じてほしいと願ったからです。

## 世界に広がった抗議の声

ジョージ・フロイドさんの事件を撮影した映像は、SNSを通じてあっという間にアメリカ中に拡散され、警察官に対する非難の声が高まりました。ミネアポリスのレイ市長は映像を見て「黒人であることが死刑宣告であってはいけない。あまりにもひどい。すべてにおいてまちがっている」と述べました。



▲各地で抗議の声をあげる人たち

さらにこの事件は抗議運動「ブラック・ライブズ・マター(BLM)」としてアメリカ中に広がり、白人など黒人以外の人たち、とくに若い人たちが人種差別反対を訴えました。「ブラック・ライブズ・マター(BLM)」は、日本語では「黒人の命も大切だ」と訳されることが多いです。

なぜ「すべての人の命が大切(All Lives Matter)」ではないのでしょうか。それは、アメリカ社会で黒人は常に命の危険にさらされているので、優先して助けが必要であるということをつたえるためです。

## 「ブラック・ライブズ・マター(BLM)」運動の始まり

そもそも「ブラック・ライブズ・マター(BLM)」は、2012年2月にフロリダ州で起こった事件に無罪判決が出たことをきっかけに始まった運動です。17歳の黒人少年トレイヴォン・マーチンさんが、パークのフードをかぶってお菓子を買いに出かけたところ、不審者と思った白人男性に射殺されました。マーチンさんは武器を持っていなかったにもかかわらず、加害者の白人男性は正当防衛として無罪になりました。

この事件を知ったアリシア・ガルザさんという黒人女性が、判決に対する抗議の文章をSNSに投稿。これを見た友人の女性たちが、文章の最後にあった「ブラック・ライブズ・マター(BLM)」をキーワードにして発信したのが運動の始まりです。

この2年後の2014年は、白人男性による取り締まりで黒人の命が奪われる事件が続きました。まず、7月のニューヨーク州では、43歳のエリック・

▶警察官に取り押さえられた黒人男性。警察官に呼び止められたり、暴力を振るわれたりする機会は、白人より黒人の方が多い



▲抗議の行進をしながら、ジョージ・フロイドさんの顔を描いたシャツを警察官に見せる参加者

ガーナーさんが複数の警察官に取り押さえられて死亡。8月にはミズーリ州で18歳のマイケル・ブラウンさんがコンビニから帰る途中、警察官に撃たれて死亡しました。11月、オハイオ州では、おもちゃの拳銃を持って公園で遊んでいた12歳のタミル・ライスさんが、通報を受けた警察官に射殺されました。

いずれも警察官は起訴されていません。そのたびに抗議の声は高まり、「ブラック・ライブズ・マター(BLM)」という言葉もさらに広がっていきました。

